一般化学Ⅱ試験問題

14M 皇紀 2675年2月4日

以下の問1~6を解け。計算問題は、解法に関する自分の基本方針が採点者にはっきり分かるように途中の経過を明示すること。偶然に出た解答は採点の対象にはならない。

1. 最大仕事関数、Aを用いて、dA = -PdV - SdT ----- (1) を誘導し、(2), (3) が成り立つ事を示せ。

$$(\partial P/\partial T)_V = (\partial S/\partial V)_T$$
 ---- (2)

$$(\partial U/\partial V)_T = -P + T(\partial P/\partial T)_V ---- (3)$$

また、 C_P - C_V = $\alpha^2 V_o T/\beta$ が成り立つことを示せ。ただし、 α は膨張率、 β は圧縮率である。

2. 25° C, 1 気圧における次の反応を利用して電池を組み立てた処、起電力 E° = 1.56 V が観測された。この反応における ΔG° と E° の関係式を誘導し、 ΔS° を求めよ。また、この反応の平衡定数 $\ln K$ を計算せよ。

$$Zn + 2Ag^+ \rightarrow Zn^{2+} + 2Ag$$

 $\Delta H = -364 \text{ kJ}$

- 3. 次の各物質の、 G° , S° を用いて、下の反応の ΔG° , ΔS° 及び ΔH° を計算せよ。反応は 25° Cで行われるものとする。
 - a) $CO(g) + 2H_2(g) \rightarrow CH_3OH(l)$
 - b) $C(graphite) + H_2O(g) \rightarrow CO(g) + H_2(g)$

物質	$H_2O(g)$	CO(g)	$H_2(g)$	CH ₃ OH(l)	C _(graphite)	
S° /cal•K-1•mol-1	45.11	47.30	31.21	30.30	1.36	
G° /kcal•mol-1	-54.64	-32.81	0	-39.74	0	

- 4. エステルの塩基触媒加水分解において、次の a), b) 2つの化合物の中、どちらが 反応性が高いか。反応機構(反応性中間体)を描いて説明せよ。
 - a) CH₃COOC₂H₅ b) CICH₂COOC₂H₅
- 5. 次の反応は、左右何れの方向に傾くか。簡単な理由と共に述べよ。ただし、変化 の方向と理由が矛盾していれば点数にはならない!
 - (1) $H_2SO_4 + AcONa \rightleftharpoons NaHSO_4 + AcOH$
 - (2) $MeNH_3^+ + MeCONMe_2 \rightleftharpoons MeNH_2 + MeCONHMe_2^+$
 - (3) PhNHCOMe + PhNH₃⁺ ₹ PhNH₂+COMe + PhNH₃

6. 次の反応の生成物を示し、また、共鳴構造式を用いその反応機構を簡単に示せ。 ただし、置換の詳細は省略しても良い。

a)
$$\bigcirc$$
 COMe + Br₂ \longrightarrow FeBr₃
b) \bigcirc NHCOMe + Br₂ \longrightarrow FeBr₃

必要に応じて次の数値を用いよ。 R = 8.314 J·K⁻¹·mol⁻¹, 1.987 cal•K⁻¹•mol⁻¹ or 0.082 *l*•atm•K⁻¹•mol⁻¹; F = 96485 C 1,

ハルムホルツの自由エネルギーより
$$A = U - TS \cdots 0$$
辺々微分にて
$$dA = dU - TdS - SdT$$
準幹的過程なので
$$dA = - PdV - SdT (1)$$

$$= - TdS - PdV$$
 $(2A)$
 $(3A)$
 $(3A)$

Zn + 2 Agt → Zn2+ 2 Ag AH = -364KJ Zu nood Rich LTIET 32 e-1 2 n mol 科動する. 電氣的(t事 - Welect = I2Rt 内部抵扶のした仕事 $-Wg = I^2rt$ (Re升部抵抗、re内部抵抗とC压) $Q = 2nF = It \left(F : 797 + \overline{c} + \overline{c$ Tint". DG = WEDE = Welect + Wg =- I2(R+r)t $=-\left(\frac{E^{\circ}}{R+r}\right)^{2}\left(R+r\right)\frac{R+r}{F^{\circ}}2nF$ = - 2n F E = -2n. 96+85 E° =- 192970 nE° (n: もい歌) ギブスの自由エネルギーより DG = DH - TOS $\Delta S^{\circ} = \frac{-\Delta G + \Delta H}{T} = \frac{-364 \, \text{KJ} + 192970 \, \text{n E}^{\circ} \text{J}}{298 \, \text{K}}$ (モルに関す記述がないので とりあなず n= 1 mod としてこ) \$T= DG = - RT INK LY $InK = -\frac{\Delta G}{RT} = \frac{301033.2 \text{ n}}{8.314 \times 298}$ (上に同じ) = 121.5 = 122

14M 一般化学試驗問題解答

```
a) \triangle G^0 = G_0(CH_2OH_1F) - \left\{ G_0(CO, 9) + 2G_0(H_{21}g) \right\}
        = -39.74 - (-32.81 + 2 \times 0)
        = -6.93 [kcal/mol]
    ΔS° = So (CH2OH, P) - { So (CO, φ) + 2 So (H2, φ) }
        = 30.30 - (47.30 + 2×31.21)
        = - 79.42 [cal/mol]
    4H° = 4G° + Taso
         =-6.93×103 + 298 × (-99.42) = 30.60 × 18 [cal/mol] = 30.60 [lecal/mol]
en) DG= 40 ( LO, 9) + 40 (H2 1) - (40 (C(graphite)) + 40 (H20, 4) 4
        = -32,8 +0 - (0-54.64)
        = 21.83 [kcal/mol]
    △5° = So((CO(q) + So(H2(q)) - } So(((graphite)) + So(H2O(q)))
        = 47.30+31.21 - (1.36 +45.11)
        = 78.51 - 96.47 = 32.04 [ cal/mol]
    4H" = 0G" + Tos"
        = 21.83 \times 10^3 + 298 \times 32.04
        = 31.37 × 103 [ cal / onol]
        = 31.37 [KJ/mol]
```

問4以降は、正確な解答を作ることができませんでした。手塚先生からいただいたコメントをもとに考えてください。

問4について

反応が全く理解できていない! 男は女の魅力に惹かれる。男とは、 OHであり、女とはエステルである。 アニオンは+に引かれる。女の魅力 とは、δ+電荷密度である。CI による -1 効果により、クロル酢酸エス テルのカルボニル炭素のδ+電荷密 度は増大する。故に、OHが引き付けられ易い。または、反応性中間体 の構造は、図のようにアニオンとなる。故に、一電荷の分散により安定 化する。CIの -1効果により、安定な 反応性中間体が生成するので、クロル酢酸エステルの方が反応性が高く

なる。

せめて、以上のようなストーリー は考えて欲しい。

